

発刊のごあいさつ

加古川市人権・同和教育協議会 会長 松本 嘉治



加古川市人権・同和教育協議会は1970年（昭和45年）、同和教育を通じた人権意識の高揚を図るため、市内の関係団体等の参画により加古川市同和教育協議会として発足しました。これまで、「差別の現実から深く学び、人を大切にする」同和教育の理念を身近な生活に位置づけ、すべての市民の人権が尊重される家庭や地域、職場、学校園づくりをめざし、人権教育・人権啓発を進めてきました。

2020年、本協議会は発足50周年という節目を迎え、50周年記念誌を発刊することにしました。記念誌の発刊には、本協議会が半世紀にわたり取り組んできた活動や事業を記録として残しておきたいという願いとともに、先人たちが差別解消に向けて日々努力してきた意思を今後も引き継いでいこうという熱い思いが込められています。

振り返れば、この50年間、本協議会が同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決に取り組んだ成果として、人権を尊重する市民の意識は着実に高まってきています。しかしながら、社会の変化に伴い、インターネットによる誹謗中傷、多様な性についての理解、さらには昨年度より流行している新型コロナウイルス感染症拡大による医療従事者や感染者等への心ない言動など、新たな人権課題も明るみになってきています。

21世紀は「人権の世紀」と謳われ20年が経過しました。また、近年では国連による持続可能な開発目標（SDGs）が提唱され、国籍、民族、性別、思想信条、社会的立場にとらわれることなく、誰もが互いの違いを受け入れ、人として幸せに生きていくことのできる共生社会の実現がより一層求められています。本協議会においても、今までの取組を継承しながら、市民一人一人が様々な人権課題への正しい理解を深め、人権課題に対する感性を磨くことができるよう、人権教育・人権啓発のさらなる充実を図っていこうと考えています。

とりわけ、市民のみなさんからは、これからの社会の担い手である若者や子どもたちが夢を持ち、一人一人の違いを認め合い、人と人が豊かに繋がっていくことのできる『いのち輝くまち 加古川』のまちづくりが求められています。

そこで、本協議会は2021年8月の人権フォーラムにおいて、「子どもや若者に 明るい未来を！」をテーマにした記念シンポジウムを開催し、パネラーの方々から貴重な意見を伺うことができました。本協議会では、パネラーからいただいた意見や提言を今後の活動への示唆として真摯に受け止め、人権が尊重される明るい家庭や地域、職場、学校園づくりの一層の推進に取り組んでいこうと意を新たにしています。

今後とも皆様のご支援とご協力をお願い申しあげ、ご挨拶にかえさせていただきます。